

土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会
第7回小委員会 議事録

1. 日時：2022年4月27日（水）13:10-15:00
2. 場所：Zoomによるオンライン会議
3. 出席者：奈良委員長、桑垣委員、中村委員、武田委員、松村幹事長、蛭沢原子力土木委員会委員（オブザーバ）、小長井原子力土木委員会顧問（オブザーバ、14:00まで）
4. 資料
資料1 第6回リスクコミュニケーション小委員会議事録（案）（松村幹事長）
資料2 社会に開かれた原子力土木に向けて専門家・技術者らが考える情報発信と対話—原子力土木委員会を対象とした質的調査—（原子力土木委員会デルファイ論文ドラフト）（桑垣委員）

5. 議事要旨

前回小委員会の議論を踏まえて、デルファイ調査をリスコミ小委員会としてどのようにまとめていくかの方向性の議論を、4月11日に開催された原子力リスク評価部会への説明会の状況ならびに論文ドラフトに基づいて、今後の活動も視野に、委員全員で行った。主な内容をまとめると以下のとおりである。

原子力学会リスク評価部会にはデルファイ調査に協力していただけることになった。

論文ドラフトについては、1) 質問項目①から⑤を設定した理由をこれまでの小委員会の議論を踏まえてより詳しく記載してはどうか、2) 今回の結果の位置づけとして、原子力土木の専門家の特徴を示すことで、コミュニティーの違い（他学会等との）を議論することができるのではないか、3) リスコミの専門家から見た課題などを示すことで、今後の原子力土木のリスコミの方向性の議論につなげるのが良い、4) 今後の展望として、社会の変化の様子や原子力土木委員会、小委員会の活動への展開、海外のリスコミ情報等、幅広く触れることとしてはどうか、などの意見があり、さらに意見交換を継続し、論文を執筆・修正していくこととなった。

論文の投稿先についても議論を行い、原子力土木委員会としてこの小委員会の活動や委員会としての体制や取り組みを土木学会に発信していくことが大事であり、内容的に近い論文部門もあることから、土木学会論文集の計画部門を投稿先の第一候補として検討することとなった。

論文の作成については、人文社会系の委員が中心となって執筆を進めるが、委員全員で情報提供、意見出しをしていくこととした。特に今後の展望に関するキーワード、集約された項目名称については積極的に意見出しを行う。

6. 今後の予定

当面は、論文執筆を優先し、一か月（5月末まで）を目途にメールにて意見交換、論文執筆を進める。原子力学会へのデルファイ調査依頼は、論文が一段落した後に具体的な準備を開始する。次回小委員会は論文がまとまった段階で、あらためて日程調整を行う（7月開催を目標（幹事の希望））。

以上